

2025 3

美術家たちが魅力にせまる

# 2025年前半の 主要美術館展

クレー、ミロ、上村松園、ルドン、ゴッホ など

# 月刊 美術

No.594

Since 1975



Colors-g.sh 長谷川喜久

**デビュー** 美術新人賞  
2025

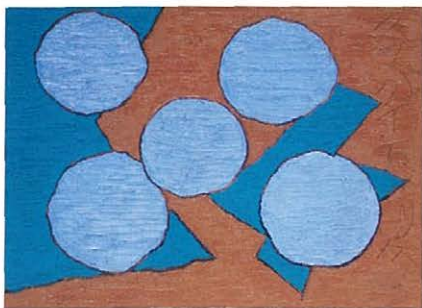
入選28作家一挙紹介

## Artist File

## 柳ヶ瀬画廊

## N007 熊谷守一

アートフェア東京では一貫して「熊谷守一秀作展」を開催する柳ヶ瀬画廊。モリカズ様式と呼ばれる独自の輪郭線と色彩感覚による画風で知られ、91歳を超えても新たな画風に挑戦した近代絵画の巨匠。どの年代の作品からでも、誰かの模倣ではないオリジナリティを感じられる。今年には熊谷の油彩画7点を一挙展示するとともに同時代の巨匠大家の名品展示も予定している。

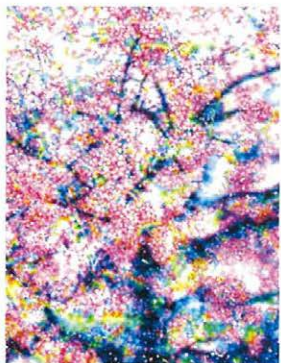


熊谷守一 《あぢさい》 4号 油彩 1975年  
『熊谷守一油彩画全作品集』No.1044 掲載作品

## Artist File

## 川田画廊

## N011 塚本智也



ランダムに配置された鮮やかな色の集積のなかから、人物などのモチーフが浮かび上がる作風の塚本。近年は鯉など水辺の風物や自然の動物などさまざまな題材を手がける。国内のアートフェアのほか、台湾、シンガポールでも人気となった今、日本のイメージである桜を、画面いっぱいに満開に咲かせる。個展形式での紹介。

塚本智也 《桜18》 145.5×112cm (80F)  
アクリル、キャンバス  
Courtesy by ADMIRA gallery

## Artist File

## 日動画廊

## N057 木津文哉



木津文哉 《守護神》 100S×3 ミクストメディア

独特のリアルな絵画で知られる木津文哉を特集。昨年秋の東京藝術大学退官記念展の好評を受けて、絵画を組み合わせて家のように立体化した作品や100号3枚で構成する大作など、平面を立体に見せる様々な挑戦を大ブースで展開する。

# まだまだあります 注目ブース

## Artist File

## ギャラリーためなが

## N044 山本大也、木村佳代子、 小津航、木下友梨香、 中比良真子



中比良真子 《The world turns over No.81》 61×91cm  
キャンバス、油彩



木下友梨香 《ポピー》 100×80cm  
パネル、ペンキ

水面に映し出された世界など、移ろいやすい一瞬の情景を描く中比良真子がアートフェア東京初登場。幼少期に見た記憶の中の花や植物を抽象的に表現する木下友梨香のほか、昨年末に初の画集を刊行し個展でも注目が集まった木村佳代子、パリでの個展を終えて東京でも個展を控える山本大也、新感覚の静物画を描く小津航をラインナップする。